

第3回大網白里市男女共同参画審議会 議事要旨

日 時	令和2年8月19日(水) 14時30分～15時40分
場 所	中央公民館 2階 研修室
出席委員	別紙出席者名簿のとおり(後藤会長は、オンラインでの参加)
欠席委員	松田 ひろみ、米倉 裕治、田村 隆文、上代 義隆(敬称略)
配付資料	別添のとおり

<議事要旨>

【1 開会】 (省略)

【2 議題】

(1) 第2次大網白里市男女共同参画計画素案について

事務局 資料について、説明

会 長 素案について意見等がありますか？

委 員 P34の49番、指標をがん検診の受診者数に変更した理由、数値をこの数値に設定した理由を教えてください。全体数がわからないと判断しづらい。

事務局 市で行ったがん検診の受診者数しか把握できない、市では、会社の健診や個人的に人間ドッグで受診している人が含まれないため、割合としては低くなってしまいますので、人数にしたいとのことであった。平成30年度の結果では、乳がん検診が2,506人、子宮がん検診が1,058人であった。

会 長 その人数は、全体としては何パーセントなのか。母数は何の数値か。

事務局 母数は、がん検診の対象者である。

会 長 それは何パーセントか。30%を超えているのでは？

事務局 超えていない。平成30年度の結果だと、乳がんが13%、子宮がんが9.8%である。

会 長 人数でやってもどれくらい達成したかはわからない。どんどん女性が働くようになり、会社等の検診を受けるようになるとこの数値は減っていくので、何かいい方法はないだろうか。提案はあるか。

委 員 乳がん検診、子宮がん検診の対象は何歳以上の女性なのか。

事務局 乳がん検診は30歳以上の女性、子宮がん検診は20歳以上の女性であるが、2年に1回なので偶数年齢の方が対象となっている。

委 員 自分も個人的に人間ドッグを受けている。

会 長 この指標を作ったときのことはよく覚えていないが、そもそもこの数値が増えるものなのか、減るものなのかよくわからない。専業主婦や農業など自営業の方などにも積極的に受けてもらいたいとのことこの数値なのだろうが、そのような世帯数がだいたいどのくらいあって、30歳以上の女性の何%が会社等の検診の対象外になるというのがわかれば、もっと正確な数値が出ると思うが、そのような計算式は出せないか。

事務局 難しいと思う。就労状況等がわからないし、会社によっても事情が異なるので、分母の把握ができない。

会 長 そうするとこの指標の意味がない。役に立たない指標となってしまうので、指標を見直す必要があるのかもしれない。それでも人数を指標として残しておく方がいいのか。誰

か意見はあるか。

この素案をどうするか再度検討する場はあるのか。パブリックコメントをするのか。

事務局 パブリックコメントをする予定である。

会長 では、分母の問題があるので、指標としてふさわしいかどうか、指標として残すのであれば、より客観的な指標となりうるような計算式があるのか検討してもらいたい。

事務局 検討します。

委員 P33、49番 性差に配慮した健康づくりというところに、検診だけでなく、健康診断をもう一点加えてもらえないかと思う。性差に応じた健康づくりとか、男性のための心と体の健康相談などの健康支援への取組をここに入れたらいいのではないかと思った。

会長 指標としてはどのようなものか。

委員 指標ではなく、その取組を事業として入れてはどうかと思う。相談体制の充実のような。

会長 P33の施策の方向性のところに、指標ではなく、50番というのような形で入れるということか。

委員 そうである。

会長 事務局としてはどうか。実際、健康相談のようなものはやっているか。

事務局 健康相談自体はやっていると思う。新たな事業として入れるかどうかについては、担当課と協議したい。

会長 では、担当課と相談してもらい、すでにやっているということであれば、よりそれを促進するためにも載せる方がいいと思う。担当課と協議してもらいたい。

委員 P5の下、「V あらゆる暴力の根絶と人権の尊重」に、前回の会議の際、「多文化共生」とか「性の多様性」とかを事務局で考えてもらい、入れてもらえてとても良かったと思う。人権の尊重が重要になってきているので、良かったと思う。P44 (3)の文章の中の2段落目、「…性的少数者の中からカミングアウトする人が増えた…」とあるが、当事者の意識としては、職場等でからかわれたなど、差別的発言をされたと聞いたことがあり、そういう人はカミングアウトはしていないと思われる。たしかに、パートナーシップ制度とはあるが、個人的には、「カミングアウトする人が増えた」という表現はない方がいいのではと思う。

会長 カミングアウトするかしないかは個人の自由であり、カミングアウトした人が増えたというよりは、「いろいろな調査等で性的少数者が…」のような…。性的少数者という言葉を使っていいかも若干問題があると思うが。最近では、SOGI (Sexual Orientation and Gender Identity) という言葉を使う。カミングアウトする人が増えたから対策しなくてはならないということではない。そうだとすると、カミングアウトすることを強制することになる。ここをなんとか工夫してもらいたい。あと、性的少数者という言葉を使うかどうかについても検討してもらいたい。国連でも、SOGIという言葉を使って、「一人一人の問題である」という認識がある中で、多数派少数派という話よりも、人権の尊重ということなので、「それぞれのセクシャルアイデンティティを尊重して…」というようにした方がいいのではないかと思う。この文章について、再度検討してもらいたい。

実質的には少数者ではあるが、少数者だから…という話ではなく、それぞれが自分の性に向き合い、その中で、自分と違うセクシャリティを持っている人に対する課題とい

うことで書き直してもらいたい。

会 長 今回は、第2次の計画だが、意識調査も2回目ということか。

事務局 そうである。

会 長 毎年ではなく、2回目ということでもいいか。

事務局 そうである。

会 長 そうであれば、2回目が1回目と違ってどのように変化したかということがわかるように、グラフを増やしてもらいたい。すべてのグラフではなくても良いが、いくつかの表で意識が変わっていることが見えるようにしてもらいたい。意識調査の結果の発表では、2つ並べていたと思うが、この計画の中でもP7,P12などの表でできないだろうか。第3次も作っていくことになると思うが、2次と比較するか、1次と比較するか・・・という問題もあるが、この計画の中で変化が見えた方が良くと思う。

事務局 入れられるよう検討する。

会 長 P14で指標を削っているが、理由を教えてください。

事務局 担当課から聞き取った内容を説明させてもらう。

「女性職員の能力開発として、積極的に研修へ参加させることは、大変意義あるものと認識しているが、女性職員も役職・経験年数が違うなかで、人数を指標とし、対象を割り振ることは困難である。また、本人の事情（家庭の事情）等による職員の意識の違いもあるため、無理に参加させることについては、費用対効果からも好ましくないものとする。」

会 長 全然理由になっていない。ここでは、職員に応じた職員の研修をしてもらいたいといっている。今まで年に何回の研修が行われていて、どのくらいの人数が参加しているのか。もし、指標とするのであれば、延べ人数ではなく、行った回数にするのはどうか。研修を行ったけど誰も参加しなかったというのであればまだしも・・・。

事務局 回数は把握していないが、元年度は19人だった。研修は、市で企画したり、他の研修等を利用して研修機会の拡大には努めたいとのこと。

会 長 研修機会の拡大に努めるのであれば、指標をなぜ無くさないといけないのか、個人的には納得できない。例えば、延べ人数が問題であれば、機会を指標にする等・・・。研修の機会を拡大するというのであれば、拡大するような指標を載せてもらいたい。

事務局 総務課と協議する。

会 長 第1回の時に気づかなかったのだが、P11 国の計画では、国会議員の数なども載せているので、審議会だけでなく、市議会議員の女性の数も載せてもらえないか。

事務局 グラフとして載せるということか。

会 長 審議会委員のグラフの前に、国会議員のグラフと対比するようなグラフを載せてもらえないか。文章としても「市議会議員としては～・・・」のようなものを追加してもらいたい。現状として、市議会議員の割合はどうか。

事務局 女性議員は3人。全体が18人なので、16.6%である。

会 長 そんなに悪い数値ではない。いい数値でもないが、全国の市の議員の女性割合と比較した形で載せてもらいたい。多くの人に認識してもらおうことができると思う。

事務局 わかりました。

会 長 行政も頑張っているが、市民の意識もどんどん高めて、女性が立候補できるような環境

を整えていきましょう、ということになると思う。最初から入れれば良かったが、忘れてしまっていた。

P5は体系に変更があるということか。網かけの部分が変更されているということで良いか。

事務局 そうである。

委員 事業所への意識調査を行い、意識調査の結果が出て、自分たちは見ているが、前にも言ったが、もう少し啓発するということを入れたらどうか。

会長 計画にどのように入れたら良いか。

委員 女性の活躍推進とか、育児休暇といったところで、事業所でも協力してもらって、男女共同参画を進めていきましょう、という方向性を示したらどうかと思う。

会長 具体的にはどうしたらいいか。

委員 意識調査を行った事業所へは調査の結果を伝えない、と前回聞いたが、それよりも進歩した手段をとって、男性優位とか男女共同参画などの言葉を広めた方がいいのではないか。模索状態だとは思いますが、その点をみんなで考えてみたらどうか。議員数とか審議会とかの数の一部の人のことであり、全体的に広めるというのは難しいと思う。

会長 計画というより男女共同参画の推進のあり方ということか。計画も含めて、あり方を縦割りではなく、横串で刺すような・・・ということか。

委員 前回、意識調査の結果を事業所に公表したらどうかと言ったら、「できない」という回答をもらった気がするが、企業を含めて、男女共同参画を広めていかなければならないと思う。一部の人には、わかると思うが、HP等は見ない人もいるので、具体的な方法は思いつかないが、もっと広く市民に広めていくべきではないかと思う。

会長 男女共同参画をより身近なものにするために何か工夫ができないかということか。アンケート調査は、公表しているのか。

事務局 市のHPで公表している。

委員 企業にはしてないのでは。

事務局 市のHPには掲載していて、今年は、前回の会議での意見を受けて、市の広報紙に意識調査の結果を少しずつ掲載し、啓発していこうと思っている。

会長 記憶が定かではないが、事業所に対するアンケートはとったということではなかったか。

事務局 とった。

会長 企業に対して返したということで良かったか。

返す返さないということが議論になっていたのか・・・。

事務局 事業所に対しては個別に結果を返すことはしていない。回答していない事業所に結果を送るのはどうか？ということもあり、市の広報などを利用して、市全体に周知していければと考えている。

会長 今の話だとここに集まっている人だけでなく、多くの人が男女共同参画について考えたり、調査結果に基づいて意見を言う場があった方がいいということだと思う。そういう意味でシンポジウムをやるという話は今まであまりなかったか。

事務局 なかったと思う。

会長 そろそろ第2次の計画だし、コロナ禍の中ではあるが、コロナもいつかは終息と思うので、今指摘があったように、ただHPにあげるのではなく、毎年、何かシンポジウ

ムをやるという形で、まだ予算も間に合うと思うので、そういう形を考えてもらいたい。そうすると今発言いただいた趣旨も明らかになると思う。つまり、男女共同参画計画を作っていることすら多くの人は知らないという趣旨だと思うので、毎年シンポジウムをやって広報啓発をするということも計画に入れてもらいたい。

事務局 シンポジウムに限ってはいないが、2年に1回ではあるが、講演会や講座等を行うという形で、P10 11番に掲載している。

会長 なぜ2年に1回なのか、1年に1回にはできないのか。毎年やらないと意味がない。1年に1回にしてもらいたい。規模の小さいもの、大きいものを組み合わせるなどして、毎年やってもらいたい。そうしないと、基本計画を作る中で、アンケートもして、意識も変わってきていると思うので、何か大きいイベントをした方がいい。来年度、コロナ禍が静まったときに、何かイベントを考えてもらい、2年に1回ではなく、毎年を目指すという形にすることを検討してもらいたい。

会長 国の基本計画には、コロナや震災についての記述が入る予定になっている。災害についても、千葉県は、昨年かなり大きな被害を受けているので、防災関係の取組はどうであったか。ニーズのところにコロナのことも載せた方がいい。新型コロナウイルスと感染症対策、国はどのように載せるかは別として、、、。国と県の動向を見ながら、今年らしさを出した方がいいのではないかと思う。

もう一つ、避難所との関係で、女性の場合、年齢層が高い人が多いと思うので、高齢者や障害者に対する福祉避難所については、どういう計画になっているか。どこが福祉避難所になる・・・とか。市の防災計画にあると思うので、年齢層が高い女性への対処について、P32の43、44あたりに、新型コロナウイルス感染症対策や福祉避難所、女性への配慮など、高齢者の事を考えた部分を入れていければと思う。福祉避難所はあるのか。

事務局 あるが、福祉避難所専門としてあるわけではなく、併設になっている。

会長 福祉避難所について、そこでも女性に対する配慮をするなどを書いてもらいたい。福祉避難所もあるということ自体、知らない人もいると思うので、新たなものを付け加えるまではいなくても、()で「福祉避難所」を入れるでもいいので福祉避難所があるということを計画の中で読み取れるといいなと思う。

会長 そろそろ時間なので、気づいた点をメールや電話等で報告するのは可能か。

事務局 今月中までお願いしたい。

委員 前回要望した点について、先生は知っているか。

事務局 皆さんからいただいた意見は先生にも送付している。

委員 後藤先生に講演をしてもらいたいという要望を出した理由は、男女共同参画は啓発が第一だと思っているからである。ここで議論しても、HPに掲載しても、出前講座をやっても、一人一人が意識を持ってもらわないとダメである。これは誰しも同じ考えだと思う。そう考えたとき、何が効果的かと考えると後藤会長に、講演をしてもらい、それを市民に理解してもらい、その内容を簡潔にHPに掲載したり、回覧等を行うなど何らかの方法で啓発効果をあげることが重要だと思う。ここで議論することも大切だが、市民に意識を持ってもらうためには一番効果的な方法だと思って、要望した。

会長 P10の講演会に自分が毎年講演してもいいし、自分だけでなく、委員さんもパネリスト

で参加してもらおうなど、いろいろな方法があると思う。年に1回に限らず、年に2回とかでもいいと思う。現在、コロナ禍の中で、今年は無理でも Zoom を使って開催するなどいろいろな可能性はたくさんあると思うので、今年は無理でも、どんどん広報啓発をしていかなくても難しいところもあるというのは、指摘していただいたとおりだと思う。市の方でも動いてくれると思う。今はシンポジウムという形はなかなか無理だと思うが、機会があれば、協力していきたい。

(2) その他

事務局 意見等があれば、今月末までに連絡して下さい。

会 長 今後のスケジュールの確認をしてもらいたい。

事務局 10月にパブリックコメント、11月に審議会と進むので、よろしくお願いします。

会 長 次回は、11月ということか。

事務局 11月頃を予定している。

会 長 どういう形になるか……。11月がどうなっているか誰もわからない。皆さんも Zoom で参加とかも考えてもらいたいし、11月はできれば自分も会場に来たいと思う。

【3 閉会】